

2021年 東進本レ 第2回 一橋模試 日本史 講評

出題分析		
試験時間 120分	配点 学部により異なる	大問数 3題
分量(昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化(昨年比較)[易化 同程度 難化]	
<p>【講評】</p> <p>今回の第2回東進一橋模試では、2020年度の本試に出題された新傾向の「絵」は出題されず、従来の主題形式が踏襲された。大問1は近世、大問2は近代、大問3も近代の構成であった。昨年の本試の大問1が古代以降、大問3が近現代まで、の出題であったため、今回の東進模試の構成が2022年の本試の構成に近似しているのではないかと予想する。難易度は第1回と比較しても落ち着き、主に一橋で出題されやすい社会経済史からの出題が多く、本番に向けて問題のレベルや質の面でかなり参考になりそうな模試であった。特に大問1の江戸時代の初期豪商の衰退・流通経済の発展・江戸地廻り経済圏発達、大問2の1920年代の都市大衆化など、過去問をやりこんでいれば相応に解答できそうな内容である。現役生はこの大問で点数を稼ぎたい。しかし、大問3は本格的な政治法制史であり、天皇大権(統帥権・戒厳令)の内容や二・二六事件の内容と帰結、皇道派と統制派の主張の内容をしっかりと理解していなければ解けず、平均点はかなり悪いのではないかと。二・二六事件に関しては過去問での出題例もほとんど見られず、過去問のみの対策では苦戦したはずである。余裕のある受験生は、過去問の出題範囲「以外」の部分にもしっかり目を通しておき、もしもの場合でも他の受験生に差をつける準備をしてほしい。しかし、全体的に見て鬼問は無く、良問揃いである。大問1で書きやすいのは問3・問4・問5であり、基本事項である「菱垣廻船から樽廻船への変化」など、また過去問でも既出の分野であるため対策をしていけば容易に書ける。なお、問5に関しては近年の傾向である語句記述が出題されたが、特に使い方に迷うキーワードも無く素直な問題である。ただ、問1の初期豪商の衰退と、問3の「南海路」はやや難。大問2は最も容易な問題であった。問2以外は、対策をしていけば特に解答に困るような問題も無く、友愛会の主張の性格の変遷など、過去問からの類題も多かった。大問3は今回の模試で最も難易度が高い。かなり長い史料であり、問題の中には史料を参考にしないと答えづらいものもあった。問2問3がかなり苦戦する問題であると思う。この問題は他の受験生も解けていないと思うので、いかに問4・問5で点数を確保できるかが鍵である。特に問2に関しては全く書けなくても何ら不思議ではない。皇道派の性格を詳細に書く必要がある。なお難易度変化は、例年の本番の一橋日本史を基準にしている。大問3が難しかったが、大問1・2で書きやすい部分点を採りやすい問題が多かったため、「同程度」とした。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	初期豪商の衰退の理由/南海路/角倉了以の河川開削と河川舟運の内容/菱垣廻船から樽廻船/天保の改革の株仲間解散の内容と結果および新興商人・新興廻船の発達＝江戸地廻り経済圏発達について	<p>大問1は本格的な社会経済史からの問題だが、典型的な問題が多いため、問1・問2以外はぜひ完答を目指したい問題構成である。問3から問5は過去問での類題もあり、現役生でもかなり質の高い解答が狙えるため、平均点はそれなりに高いと予想する。</p> <p>問1…初期豪商が衰退した理由と、その商業形態を問う問題で、大問1の中では最も難しい。いきなりこの問題で戸惑った受験生も多いと思う。しかし、商業形態はわからなくても、衰退した理由は過去問の問題から類推することも可能である。その類題とは、2012年に「中世に博多と堺が発展した理由と近世に入ってからの変化」の問題のことである。この問題を思い浮かべることができていけば、キーワードは「鎖国」であることがわかるため、ここだけ書いていけば十分だろう。鎖国によって海外との交易が制限されると、朱印船貿易なども含む、彼らの国際的活動舞台が失われたのである。また、商業形態を踏まえた初期豪商の衰退という観点からは、陸上・水上交通の整備による全国市場の形成に加えて、生産力上昇は商品流通量を増加させ、国内の商品価格の地域差があまり見られなくなったことも挙げられる。海外貿易、軍事物資の調達・輸送、金融などで、権力と結びついて巨富を得た特権的商人であった初期豪商は、全国市場形成以前で中央と地方の商品価格差が大きかった時期に、遠隔地間の価格差を利用して利益を上げるときに不可欠である「船」や、季節間の価格差を生むために商品を保存しておくのに必要である「蔵」を所有することで巨利を得ていたのである。やや難。 問2…「南海路」であるが、ややマイナーな用語であるため、書けなくてもあまり影響はないだろう。一橋の短答問題は難易度が高いものが多いので、早慶レベルの単語用語集などで対策することを怠らないようにしてほしい。やや難。</p> <p>問3…角倉了以の河川整備とその利用などについて書けばよい。河村瑞賢と混同しがちなので注意。また、江戸時代の商品物流における河川舟運の恩恵については、2005年に類題がある。当時の幕府や各藩領主は、石高制の下で都市での消費生活や参勤交代のための経費を、年貢米を換金して賄っていたために物資輸送の中心は「蔵物」であったが、陸上交通は大井川の隅に橋が架かっていない河川も存在し、陸上交通は大量の物資輸送には適していなかったため、その代わりに舟運が重宝された旨を書けばよい。標準。 問4…菱垣廻船から樽廻船への変化を問う問題であり、過去問での出題はあまりないものの、日本史の典型的なテーマである。簡潔に書ければよいだろう。樽廻船の方が高速で運搬でき、また低運賃で、菱垣廻船と比較して効率が良かったからである。やや難。 問5…天保の改革の失敗例として有名な株仲間解散を説明すればよい。3つのキーワードはどれも使いやすいため、頭を悩ませる必要はあまりなかったであろう。江戸地廻り経済圏の発展は一橋日本史における重要事項の1つであるので、内海船が新興廻船であることは知っておいてほしい。水野忠邦の株仲間解散については2010年に類題があり、難なく書けたはず。今回はその類題に関して、物産上昇の要因が、株仲間による独占ではなく、むしろ新興商人や新興廻船の台頭を背景とした従来の流通機構の動揺であったという視点まで広げた問題である。文政以来続けられた品位の劣る貨幣の大量改鑄や、生産地から大坂に商品が届く前に下関や瀬戸内海沿岸のほかの場所で売買されたり、内海船など新興廻船業者が地方の商人(在郷商人など)と結んで江戸の仲間外商人や江戸以外へ直接に運んだりしたことを原因とする、従来の大阪市場への集荷と株仲間の輸送による商品流通の基本構造の動揺が原因であった。標準。 なお、問1に関しては私のサイト上の予想模試9の大問1の問1が的中した。</p>	標準

<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">II</p>	<p style="text-align: center;">モガ/ターミナルデパートに関して/20年代のマスメディアの普及/民主主義と民主主義の比較/友愛会の主張の変遷</p>	<p>近代の社会経済史・文化史に関する問題であり、非常に一橋らしい出題である。2019年の大問2を彷彿とさせるようなリード文であったが、その問題と比較してもレベルはかなり低く、答えやすい問題が多い。問2については一見戸惑うと思うが、難しく考えずに小林一三のターミナルデパートについて簡潔に書けば十分であると思う。また、民本主義と民主主義の相違も、日本史選択なら誰もが触れたことのある論点であると思う。ここを取りこぼすと少し痛い。問3はどれだけ具体例をあげて加点要素を増やすことができるかが鍵である。問5に関しては過去問にしっかりと類題がある。平均点は3つの大問の中で最も高いであろう。問1…モガ(モダンガール)。易。問2…過去問にも類題が無く、ほとんどの受験生にとって初見の問題。だが、多角化を推進した小林一三の事業について理解があれば、なんとか発着駅のターミナルデパートについて書けると思う。利用客増加に関して鉄道と百貨店の間のシナジー効果を図ったものである。従来の百貨店経営に関しては、三越百貨店など主に呉服店による経営で、鉄道会社以外の主体による経営であったこと、または駅から離れた場所での営業などに簡単に触れればよいと思う。ただ、世界初の鉄道会社による経営であるターミナルデパート=阪急百貨店は1929年の創業のようなので、阪急百貨店に関しては書かなくても良いと思う。ちなみに、小林一三は元テニスプレーヤーの松岡修造の父方の曾祖父。標準。問3…20年代の出版状況に関する問題。2019年の本試の大問2の間3・問4を彷彿とさせるが、ここでは「中央公論」「改造」「文藝春秋」などの総合雑誌だけではなく「日本」「キング」などの大衆雑誌、「大阪朝日新聞」などの新聞など、紙媒体のメディアに関して網羅的に触れる必要があるだろう。標準。問4…民主主義と民本主義の違いを問う。典型テーマであるが、なぜか一橋日本史での出題は無い。今後の出題に備えよう。民主主義では、デモクラシーを国民主権(人民の、人民による)としたが、民本主義では天皇主権の帝国憲法に抵触しないようにし、主権運用が民衆本位(人民のための)とした。民本主義は、政党内閣制と普通選挙法制定を具体的目標とした大正デモクラシーの指導理論となったものの、普選運動は原敬内閣による普通選挙法否決を契機として挫折し、その妥協的性格を社会主義やサンディカリズムの側から批判され、大正中期以降急速に影をひそめた。標準。問5…友愛会の主張の変遷について。これは過去問で2000年に既出であり、この年の問2・問4の解答をそのまま使えばよい。当初は労働者の共済・修養を目的とした労使協調主義的な性格が強かったが、第1次世界大戦を通じて組織は拡大、戦闘化し、労働組合的色彩が強くなった。大日本労働総同盟友愛会、日本労働総同盟と改称し、階級闘争主義を掲げたが、20年代後半以降は労資協調へ転じ、左翼が分裂して日本共産党の影響の強い日本労働組合評議会を結成してからは右翼組合の代表となった。争議は小規模化し、昭和恐慌を背景として失業反対・賃金値下げ反対など防衛的な要求になっていった。標準。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 1.5em; font-weight: bold;">標準</p>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">III</p>	<p style="text-align: center;">斎藤実/宮中勢力への皇道派の敵意/統帥権の内容とその性質/戒厳令について/二・二六事件の帰結</p>	<p>一橋日本史としてもかなり新鮮な視点で、二・二六事件については過去に出題も無い。史料を読まないで解答しづらい問題も含まれているだけでなく、問題の問い方も一捻あり、総じて難しい。問1…内大臣であった斎藤実を指摘するのは容易でなく、誰もが想定していなかったであろう短答問題。できなくても気にする必要は無い。岡田啓介首相と誤認されて松尾伝蔵海軍大佐が射殺され、高橋是清蔵相、斎藤実内大臣、渡辺錠太郎教育総監が殺害され、鈴木貫太郎侍従長が重傷を負った。やや難。問2…問3と並び、恐らく今回の模試で最も難しい問題である。ただ皇道派の主張を理解していれば何とか書けるかもしれない。皇道派の主張は、「直接行動によって政党や元老・重臣などを排除して、天皇親政に基づく軍部政権を樹立することで「昭和維新」を断行する」ことである。つまり、天皇親政のためには、宮中勢力の元老や内大臣など=「君側の奸」らは排除すべき存在であったのである。このため、リード文にあるように、最後の元老である西園寺公望の秘書であった原田熊雄は、命の危険から宮内省に行かず「ひとまず家に帰った」のである。また、当時の元老・内大臣の地位に関しては、天皇の下問に答えて内閣首班の推薦を行い、国家の内外の重要政務について政府・天皇に意見を述べ、その決定に参与するほどの権限を持っていたことを述べる。それゆえ、天皇親政の昭和維新を断行するために、皇道派にとって宮中勢力は排除すべき存在であった。『…二・二六事件はそういう国民的支持を欠いた、陸軍青年将校の宮中革命であった。彼らは、軍事クーデター決行の後に国民に訴えたのではなく、「君側の奸」を倒して天皇個人に訴えたのである。…二・二六事件は国民的支持や期待を欠いていただけでなく、肝腎の天皇からも排斥された。君側の奸たる「重臣グループ」を襲撃すれば、天皇は青年将校の心情を理解してくれるはず、という反乱将校たちの期待は、天皇自身によって否定されたのである…』(『日本近代史』坂野潤治 ちくま新書)。「君側の奸」というワードは覚えておいてもよい。やや難。問3…問2と並び、かなり頭を悩ませる問題。ただ、天皇が陸軍に反乱軍の鎮圧を命令できた憲法上の根拠としては、頻出の天皇大権における「統帥権」に触れることは容易であろうから部分点はとれたか。天皇大権については2012-1996-1991年に既出。また、問題の後半が非常に難しいが、問題文にある「側近」とは、リード文にある武官長や「川島陸軍大臣」を指していると考えれば、一応の解答はできそうである。つまり、統帥権は通常の天皇大権とは異なり、内閣も関与できない慣例であるため、内閣を構成して「軍政」にしか関与できない陸軍大臣は、「軍令」事項である統帥権に関与することに及び腰になっていたと考えられる。軍政と軍令の相違は、一橋日本史を攻略する上で必須事項であるから必ず押さえてほしい。軍政機関である陸軍省は、軍の編成・維持・管理を担当し、陸軍大臣は内閣を構成する閣僚であった。一方、軍令機関である陸軍参謀本部は軍の指揮・命令を担当し、参謀総長は内閣から独立し、天皇に直属していた。やや難。問4…唯一容易な問題。非常事態に軍に治安権限を与えたという戒厳令の内容を簡潔に書けばよい。易。問5…処分方法(首謀17名と北一輝・西田税の処刑)はわざわざ問題にする必要があるのか疑問が残るが、それ以外は二・二六事件以降の軍の政治的発言力強化という典型問題。ただ、過去問の出題は無く、初見では厳しいだろう。統制派が軍を掲げ、予備役に追い込んだ皇道派将官の復権を防ぐためと称して軍部大臣現役武官制を復活させると、皇道派を一掃し、政治関与を強めた。やや難。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 1.5em; font-weight: bold;">難</p>